



全標協広報

2019 9
NO. 340

○国家公安委員会委員長に要望……………	1
○国交省登録後初の道路標識点検 診断士研修を開催……………	2
○令和元年度第1回登録基幹技能者講習合格者	3
○タイにおける道路交通安全の取り組み……………	4
○国土交通大臣表彰受賞者挨拶……………	6
○事務局長就任挨拶……………	7
○バルト三国訪問記……………	8
○お知らせ……………	12

ご意見をお寄せ下さい！ Eメール: soumu@zenhyokyo.or.jp

「トラフィックサポーター」は、ホームページではカラー版でご覧いただけます

発行所 〒102-0083 東京都千代田区麹町3-5-19 にしかわビル3F (一社)全国道路標識・標示業協会 TEL 03-3262-0836 ホームページ: <http://www.zenhyokyo.or.jp/>

国家公安委員会委員長に要望

全標協役員は、7月23日(火)に国家公安委員会委員長室(千代田区霞が関・合同庁舎2号館)を訪問し、山本順三国家公安委員会委員長(国土強靱化担当大臣、内閣府特命担当大臣(防災))に予算等に関する要望をしました。

訪問したのは、清水会長、光吉副会長、東理事及び笠原専務理事で、警察庁は北村交通局長はじめ交通局幹部が同席しました。

山本大臣には下記の要望書を提出し、予算の確保を要望しました。

山本大臣は、「最近の悲惨な事故を踏まえ、関係閣僚会議で安倍総理から安全対策を政府一丸となって推進するように指示されている。安全な歩行空間を確保するためには道路標識・標示の整備を始め各種対策を協力に推進していくことが必要であり、必要な予算の確保に努めてまいりたい。」と述べられました。



国家公安委員会委員長 山本 順三 様

道路標識・道路標示の予算等に関する要望書

道路標識及び道路標示等の整備については、平素より国家公安委員会・警察庁及び都道府県警察にご高配を賜っており、厚く御礼申し上げます。

道路標識及び道路標示は、近年老朽化が進んだものがありますが、道路交通の安全を保つためには適正な更新を推進する必要があります。また、環境面での配慮や東京オリンピック・パラリンピック等の開催及び訪日外国人の増加に対応するための標識等の国際化の推進が必要となっております。更に、幼児が犠牲になる悲惨な交通事故が相次いで発生し、その対策が喫緊の課題となっております。

つきましては、次に掲げる事項について、格別のご理解を賜りますようお願い申し上げます。

- 1 交通安全施設である道路標識及び道路標示の整備に必要な予算の確保
- 2 通学・通園路等の交通安全対策を推進するための、ゾーン30事業の充実及び交通安全施設の整備強化

令和元年7月23日

一般社団法人全国道路標識・標示業協会

会長 清水 修一

(国家公安委員会委員長は、9月11日の内閣改造により、武田良太氏が就任されました。)

国交省登録後初の道路標識点検診断士研修を開催

全標協は9月2日(月)から6日(金)までの間、富士教育訓練センター（静岡県富士宮市）において令和元年度の道路標識点検診断士研修を開催しました。道路標識設置・診断士研修から道路標識点検診断士研修となって以降2回目の開催ですが、本年1月に国土交通省技術者資格として登録されてからは初めての開催となりました。本研修は、全国の技術

者78人が受講しました。

研修は、清水会長が出席した入校式に始まり、最終日の効果測定（50問の試験）、修了式（光吉副会長出席）までの間、専門的な講義が行われました。

平地より気温がやや低い富士センターは最も過ごしやすい季節で、受講者は昨年完成した施設で行われた研修を熱心に受講しました。

研修内容

講義	講師
交通生理学・心理学	大久保 堯夫
交通人間工学	三林 洋介
労働安全衛生法、建設業法等	大平 延行
道路法、道路交通法	伊藤 清志
標識令の変遷、道路標識設置基準	本多 茂
データベース	石井 和夫
案内・警戒標識の設置	武井 仁志
自動車専用道路	石川 佳延
規制・指示標識の設置	竹内 伸一
標識の施工管理・検査要領	本多 徹
標識点検要領概論	大塚 和夫
標識の構造・部材	桶井 達彦
コンクリートの劣化・診断	小松原 学 有田 耕一
標識の設計・構造計算	武井 仁志
標識の点検	桶井 達彦
標識の診断	桶井 達彦



入校式



食堂



講義（大久保講師）



講義（コンクリートの劣化・診断）



朝礼



修了式



令和元年度第1回登録基幹技能者講習合格者

標 識		
支部名	氏 名	会 社 名
東北	佐々木秀徳	オリエンタル工業(株)
関東	石田 知志	埼玉ニットー(株)
関東	平賀 浩司	埼玉ニットー(株)
関東	今井 昭広	ダイケンテクノ(株)
関東	増茂 功悟	ダイケンテクノ(株)
関東	目崎 和人	ダイケンテクノ(株)
北陸	山岸 正	(株)企画興業
北陸	西尾 勝	日本海興発(株)
北陸	稲田 洋平	(株)レックス新潟支店新潟西営業所
中部	諸星 公一	(株)ビルドマーク
中部	山崎 吉宣	山交ライン(株)

標 識		
支部名	氏 名	会 社 名
関西	山田 浩	ジェイテック(株)
関西	勝木 博之	日光産業(株)
関西	宮下 悠太	日光産業(株)
関西	中山 彰	日光産業(株)
関西	坂本 洋一	日光産業(株)
四国	真鍋 昌樹	西日本ロード施設(株)
九州	山本 求磨	(株)カーネギー産業
九州	久藤 拓也	(株)新栄
九州	今村 幸彦	(有)シカタマテリアル
九州	乗松 賢	(有)一良建設

路面標示		
支部名	氏 名	会 社 名
北海道	平川 将徳	北海道ライナー(株)
北海道	坂上 正之	北海道ライナー(株)
北海道	代田 幹則	(株)保工北海道
東北	高橋幸太郎	岩手標識(株)
東北	菅野 柳一	(株)協栄興産
東北	渡邊 亮太	(株)トウショー
東北	中里 真人	(株)トウショー
東北	安孫子 翔	(株)トウショー
東北	藤井 雄太	三建塗装(株)大仙支店
東北	佐藤 翔	(有)アタベック
東北	篠塚 智	(有)アタベック
東北	堀井 春美	(株)秋田デイックライト
東北	山根 靖之	協積産業(株)
東北	天瀬 治二	協積産業(株)
関東	上遠野佳希	(株)光栄産業
関東	上遠野諒太	(株)光栄産業
関東	栗原 良一	(株)ケイロード
関東	石田 祐一	(株)日装
関東	桑原 一浩	上進産業(株)
関東	齋藤 秋弘	カンセイ工業(株)千葉営業所
関東	木原 将允	埼玉ライナー(株)
北陸	間島 保雄	(株)企画興業
北陸	古川 瑞生	(株)レックス上越支店
北陸	福田 淳樹	(株)レックス中越支店

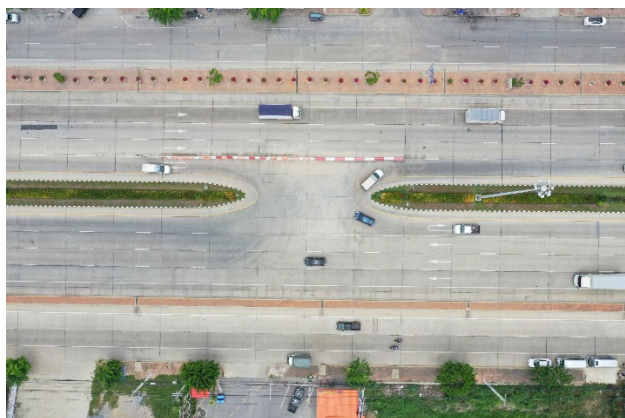
路面標示		
支部名	氏 名	会 社 名
中部	宮原 二郎	美松工業(株)
中部	田中 真一	山交ライン(株)
中部	徳井 学	(株)日本道路システム浜松支店
中部	大家 一泰	(株)アルプスサイン
中部	河野 英一	(株)共亮興業
中部	林 大督	(株)共亮興業
中部	佐竹 俊男	(株)日本道路システム新城本店
関西	中村 光宏	(株)木谷実業
関西	太田 修	福永産業(株)
関西	久保蘭 真	(株)関西ライン
関西	平岡英一郎	ジョイントロードサービス(株)
関西	鈴木 雅樹	(株)サカイ産業
関西	北村 直彦	ロード企画(株)豊郷営業所
関西	林 雅浩	(株)福井ライン
関西	津野 聖士	(有)トラスト・ロード
中国	山本 勇司	宮川興業(株)
四国	三好 幸司	(株)協和産業
四国	村田 晋平	入交道路施設(株)幡多支店
四国	新家 政史	(株)協和産業
四国	宇都宮泰彦	(株)協和産業
九州	高村 真樹	(有)ラインサービス長与支店
九州	藤 健一郎	対馬道路サービス(株)
九州	大石 達三	ミカドコーポレーション(株)

タイにおける道路交通安全の取り組み ——交通安全施設の整備状況の現状——

日本大学理工学部交通システム工学科 教授 福田 敦

タイにおける交通事故死亡率は、非常に深刻な状況である。2018年のWHOの報告では、人口10万人当たり約36人で、世界第一位となった。このような状況に対して交通施設整備の観点からは、道路交通安全監査制度や国際道路アセスメントプログラム（iRAP）の安全性評価ツールを導入し、道路の改善が進められ、2019年のWHOの報告では交通事故死亡率が世界第九位まで下がった。しかし、削減率は僅かで十分な効果は上がっているとは言い難い状況である。そこで、3年ほど前からタイ運輸省の要請を受け日本の国土交通省が交通安全ワーキングを立ち上げ、これまで9回に渡って交通安全対策の推進に向けた支援を行ってきた。筆者もこの活動をお手伝いしてきたので、その取り組みの中で見聞きしたことに基づいてタイにおける交通安全施設の整備の様子などを紹介したい。

まず、道路施設に関わる道路交通事故の状況について触れたい。タイでは、自動車の普及と呼応して1970年ごろから道路整備が急速に進展した。現在の総道路延長は約397,000Kmを超えており、他の東南アジアの国と比較すると大変高い水準である。この内、運輸省の道路局（DOH）と地方道路整備局（DRR）が管轄する道路がそれぞれ約52,000 Km、約48,000Kmあり、かなり高規格な道路として整備されている区間も多い。これらの幹線道路における速度制限は市街地部で80Km/h、非市街地部で90Km/hと大変高い一方で、アクセスコントロールがなされておらず日常交通が直接的に本線上に出てくる箇所が多いことや追い越し車線上に多数のUターン場所が設置されており高速で走行する車両とUターン車両が錯綜すること（写真—1）など、タイ特有の運用が交通事故発生の



写真—1 幹線道路上に設置されているUターン場所の様子

大きな原因の一つになっている。また、これらの道路とそれ以外の一般道との連携が取れていないため、これらが交差する地点での交通安全対策が必ずしも適切に行われておらず（それぞれの管轄の中では行われている）、これも交通事故の原因となっている。

このような状況の中で、先に述べた通り交通安全推進の観点からの道路改善、道路安全施設の整備が行われており、道路標識・路面（道路）標示の設置、道路保安・安全用品の導入なども、日本での導入事例を参考として積極的に進められるようになってきた。まず、DOHが管轄する道路の場合は、速度抑制対策が第一に求められている。非市街地部での速度制限は90Km/hであることを紹介したが、実際に実測すると120Km/hを超えて走行している車両も多く、交通事故が発生した場合のシビアリティは非常に高いので、速度抑制が必要となっている。最近増えているのが、減速マーク（オプティカルスピードバー）の設置である。高速カーブにおける速度超過によるバスの逸脱のような事故が増えているため、このような場所で減速マークの設置が進んでいる（写真—2）。



写真—2 減速マーク（オプティカルスピードバー）の設置

また、幹線道路と側道との間の合流部、流入部での事故も多いためノーズ表示、導流表示も積極的に取り入れられている。首都高速道路株式会社では以前より路面標示設置要領をタイ語に翻訳して提供していることもあり、日本で見慣れたデザインの路面（道路）標示が多くなされている。また、日本への視察を受けてノーズにクッションドラムやノーズプロテクターを設置する対策も取り入れられるようになった。速度抑制のもう一つの対策はスピードカメラの設置である（写真—3）。



写真-3 スピードカメラの設置（コンケン）

特に市街地内の区間で設置されている。速度超過の予告等があり、速度超過を知らせた上で、その下流で再度計測し撮影する形式となっている。スピードされている区間には非常に目立つ標識が多数設置されている。これまで、設置された区間では設置前後での速度差や事故発生件数などが調査されており、5%程度の速度低下が認められているとの報告もなされている。

反対に、本線上での錯綜を削減するためにオーバークロス、あるいはアンダーパスでのUターン路の設置も進んでいる（写真-4）。

また、Uターン部の近くに一般道が接続している場合、Uターン部を使って付近の日常交通が横断をす



写真-4 Uターン路の設置



写真-5 アンダーパスでの横断路

るため大変危険である。このような場所では、先の交通安全ワーキングからの提案もあり、アンダーパスでの横断路の設置が試みられている（写真-5）。

DRRが管轄する補助幹線道路でも速度抑制は大きな課題で、減速マークの他にゼブラ舗装なども取り入れられている。また、交差点における対策、黄色の箱書きのマーキングが多いが、視認性が悪い、日本に倣って赤色のカラー舗装をすることが増えている（写真-6）。

道路標識も、日本と同様の基準に基づいて設置されているが、実際には、かなりローカルな運用がなされているようである。国道では、視認性を考えて、かなり大きなサイズの標識が設置されている。このように、タイでは国土交通省の支援や首都高速道路株式会社などの協力を得て日本での交通安全対策を参考にモデル地区において取り組みがなされており、今後他の地域へも展開されることが望まれている。

当然、これらの対策の実施にあたっては、交通事故データの収集・分析が必要で、前述したDRRによるiRAP安全性評価ツールやDOHによる道路事故情報管理システム（HAIMS）などが活用され、交通事故多発地点が選定されている。しかしながらこれらの交通事故データは独自に収集・運用されており統一したデータベースがないため、現在、警察が収集する事故情報などとの統合が進められており、今後はより効率的な対策地点の選定が行われる可能性が高い。

当然、交通安全対策は、これら施設面からのアプローチだけではなく、免許制度の改善、安全運転者制度や運行管理者制度の導入、交通違反の取り締まりの強化、交通安全教育の推進など、あらゆる側面から実施する必要がある。これらに関しても、前述の交通安全ワーキングで取り上げ、検討を重ねており、免許制度の改善や運行管理者制度の導入は来年度にも実施される予定であり、交通安全施設の整備と併せて一定の効果を発揮するものと期待している。



写真-6 交差点のカラー舗装

国土交通大臣表彰の受賞にあたり

東北支部長 小山内 章誠

この度、栄誉ある令和元年建設事業関係功労表彰（道路事業）を賜りましたことを心より光栄に存じております。

ご推薦いただきました全標協本部の皆様と全国の会員の皆様に心より感謝とお礼を申し上げます。

この受賞は全国道路標識標示業協会会員が全国で献身的に地域に貢献した歴史と実績の賜物と思っています。

昭和59年11月、28歳の時に岩手県花巻市に岩手標識（株）を設立し現在に至っております。

大先輩の篤きご指導と背中を追いながら社業を前



進させて参りましたが、8年前の東日本大震災を今でも忘れる事は出来ません。震災では尊い多くの生命と財産が奪われました。

当時、三陸道・釜石地区の道路標識・道路付属物の工事をしていて工事区間が高台にあった為、多くの人々が避難し津波から逃れる事が出来たのがせめてもの救いでした。

「東北の復興なくして日本の再生なし」

今後も東北支部長として交通安全施設業は元より東日本大震災を教訓とし各地で起きている災害や防災・減災・国土強靱化に貢献出来る業界を目指してまいりたいと思っています。

この度の受賞に満足する事なく、いっそうの向上心を持って業界発展の為、努力をしてまいりますので今後共皆様方のご指導とご鞭撻をよろしくお願い致します。

国土交通大臣表彰を受賞して

関東支部長 神戸 康弘

このたび、令和元年建設事業関係功労者等国土交通大臣表彰を賜りましたこと、ご推挙いただきました一般社団法人全国道路標識・標示業協会の本部関係者皆様に御礼申し上げます。

この栄誉は関東支部の活動に対してのお褒めの言葉であり都県協会長様はじめ会員を代表して賜ったものとうけとめ、この場をお借りして各位に御礼申し上げます。ありがとうございます。ありがとうございます。

道路標識・標示業の事業に携わってきた者として身に余る栄誉でありますと共に身の引き締る思いであります。

2005年都協会副会長として支部活動に参加してから振り返りますと「コンクリートから人へ」の掛け声



のもと公共事業が悪者とされる時代に翻弄され時を経て「国民の生命と財産を守る公共事業」と再認識される今日この頃です。

先日当社で「エンゲージメントサーベイ（組織診断）」成るアンケート調査が実施され高評価をはじめ出した項目が「自社の事業が世の中の役に立っていると感じられること」でした。社員の多くが道路標識・標示の事業が社会の役に立っていると実感しています、昨今の建設業の働き方改革を考える中で大変参考になる意見でありました。

さて、東京オリンピック・パラリンピックまで1年をきりました。おもてなしの心で「世界に誇れる日本の標識・標示サービス」がある事を発信で来ます様願っております。

此れからも、この度の表彰に恥じぬよう道路標識・標示業を通し社会に貢献する活動に取り組んでまいります、今後とも関係各位のご指導とご鞭撻をお願い申し上げます。

北海道協会事務局長のご挨拶

（一社）北海道道路標示・標識業協会 佐々木 敦



本年4月から北海道警察の尊敬する先輩である鎌田昌治前事務局長の後を引き継ぎ、北海道道路標示・標識業協会の事務局長として就任した佐々木敦です。

北海道警察では、事務職員として企画、組織、人事、給与等の経験が長く、交通部門は、駐車対策、運転免許がそれぞれ1年で、道路標示・標識等の安全施設業務に携わった経験がありませんでした。それが突然、未知の世界へと飛び込んだ訳ですからさあ大変です。幸いなことに鎌田前事務局長が5月末までの2か月間、事務局に残っていただけましたので、この間は、様々な業務に関する指導を受ながら何とか持ちこたえたというところです。しかし、6月以降今日までは、七転八倒、3歩進んで4歩下がる中、悪戦苦闘の日々が続き、知識、能力不足を元気と残業で補っている状況であり、マイ働き方改革の推進にはほど遠い現実です。とはいうものの、冬期間の厳しい自然環境、広大な土地に都市が点在して、都市間距離、道路総延長が長い北海道の特殊性の下、日々現場で道路交通環境の維持に努めている会員のため、事務局長としてなすべきことをコツコツとやらなければならないと考えているところです。

さて、最近の北海道の話題をご紹介します。
北海道で野生動物（ヒグマ、エゾシカ、キタキツ

ネ等）と出会うことができる場所といえば、世界自然遺産登録地の知床周辺がポピュラーですが、今年は春以降ヒグマが市街地にも出没して、徘徊の様子、目撃者のインタビューなどが連日のように道内ローカルニュースで放映されています。これらのヒグマは人間に対する恐怖経験が全くない「新世代クマ」と呼ばれ、人里での美味しい食べ物の味をいったん覚えると、人間を全く恐れずに繰り返し出没するとのことでした。

人口約197万人の道都札幌市でも、「〇〇区の家庭菜園でとうきび（北海道では「トムロコシ」と言いません。）が食い荒らされました。」「〇〇区の市道を悠々と歩いているのを目撃しました。」などヒグマの出没通報が、本年8月22日現在172件（平成29年同時期68件、30年同時期111件）にもものぼっています。

頻繁に出没する地域では、警察、自治体、猟友会による注意喚起やパトロールが行われているほか、小学校の集団下校、遊歩道、公園の立入禁止措置など物々しい騒動が続いていますが、この地域で頻繁に出没していた個体は、8月14日に駆除され、近隣住民の方々の平穏な日常が戻っています。

長々とヒグマ出没の話題で紙面の無駄遣いをしましたが、北海道協会の新米事務局長として、業界全体が担う社会的役割を十分に踏まえまして、微力ながら最善を尽くす覚悟でありますので、ご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

事務局長就任にあたって

（一社）全国道路標識・標示業四国協会 川上 寿典



本年3月末に香川県警察を退職し、この度、（一社）全国道路標識・標示業四国協会 事務局長として就任いたしました川上です。よろしくお願い申し上げます。名前は「ひさのり」と呼びますが、ほとんどの方は

「としのり」と、また、一部の方は「ジューテン」と呼ばれる方もいらっしゃいます。36年間の警察人生で、不祥事も起こさず、また、大病もせず乗り越えてきたのは、ひとえに周囲の方々の支えがあったものと感謝しております。

昭和58年に警察官を拝命し、この間、警備警察（四国管区警察局災害対策官を含む）に19年間、交通警察（高松市出向を含む）に10年間在籍し、最後は、高速道路交通警察隊長で退職することができました。在職中は19回もの人事異動の辞令をいただきましたが、ほとんど引越しをせずに実家から通勤できたのは幸いだと思っています。我が家は、高齢の母親、妻、ペットの犬（拾得犬）で暮らしている普通の家庭ですが、すでに子供たちは独立し、うれしいことに息子は、私の後継者になってくれています。

現職時代は、仕事に追われ趣味らしいことは一切なく、退職後は、時間的な余裕もでき家庭菜園、温

泉や道の駅巡りなど、家庭第一と考え夫婦揃って行っていますし、犬を連れての早朝の散歩も日課になっています。また、子供が高校球児でしたので、高校野球観戦は炎天下の中、球場まで足を運び熱い熱戦を見に行きます。執筆中、地元香川県代表校も決まり甲子園での試合も楽しみにしています。（9月号発行の際は、高校野球は終了しています）

当協会に第二の人生としてお世話になる話があった際、“県警OBの先輩達が構築した人間関係を継続

できるのか”“専門的な業種で理解できるのか”などと心配をしましたが、着任早々の役員会で、協会の方々と話をする機会を得られ、皆さんやさしい方ばかりで若干安心をいたしました。

自己紹介的な文面となりましたが、今後とも、役員、会員の皆様方からのご指導、ご助言をいただき、前職の知識、経験が役立てるよう微力ながら頑張っていこうと思っていますので、どうぞよろしくお願い致します。

バルト三国訪問記

信号器材株式会社 執行役員 浅野 優

バルト三国と聞いてどれだけの方が国名を挙げられるでしょうか？ヨーロッパの北東、フィンランドの南に位置し、旧ソ連から独立した小国エストニア、ラトビア、リトアニアの3か国に5月28日から8日間旅してきました。所謂添乗員付きのパックツアーでなく、旅行者自身で空港からホテルへ、また現地での移動も3時間ほどの現地ガイドによるミニツアー以外はフリー時間のため、自分たちで地図を片手にあっちへこっちへと主に徒歩移動と、1日2万歩、多い日は3万歩以上も歩くというまさに「健脚」を競う旅でした。

最初の訪問地エストニアへは、成田空港からフィンランドのヘルシンキ空港へ、映画「万引き家族」やミュージックビデオを見ながら約10時間、乗り継ぎでエストニアのタリン空港へ35分、ヘルシンキー～タリン間はプロペラ機でした。エストニアは人口約132万人、首都タリンは44万人、Skypeを生んだIT先進国です。

空港到着後「トラム」に乗車してホテルまで移動しようと思ったのは良いが、下車する駅がよくわからず、たまたま乗り合わせた親切な現地の人に助けられ、なんとかホテルまで辿りつけました。ホテルはクラシックな雰囲気、エレベーターはお客自身で開閉するようなタイプでした。さすがに北緯58度の地、食事を済ませ夜8時を過ぎても「白夜」の影響により空は明る

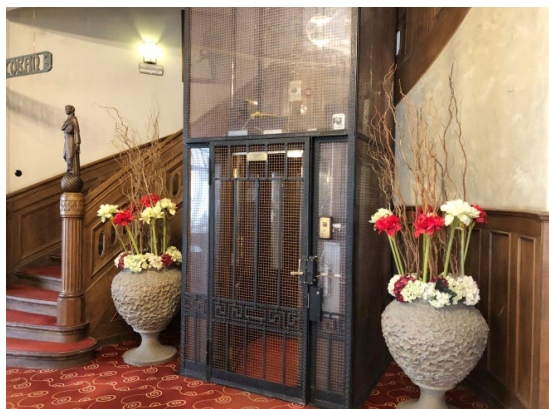


ラエコヤ広場

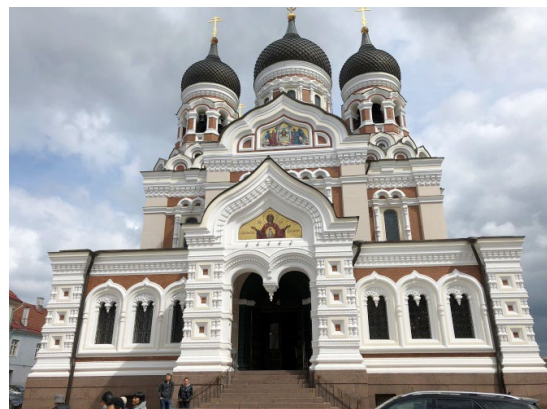
く、暗くなるのは10時過ぎになってからです。

タリンは旧市街と呼ばれる中世の空気を今に伝える地域と新市街に分かれ、旧市街は世界遺産にも登録されています。石畳、城壁そして教会の町です。旧市街の中心は、宿泊先のホテルからも程近いラエコヤ広場で、多くの人で賑わっています。中世では商品の売買から罪人の処刑まで行われたという旧市街の中心地です。

広場から上の方へ上っていくと、帝政ロシア時代に建てられたアレクサンドル・ネフスキー聖堂があります。中世に建てられた教会とは全く趣の異なる



ホテルのクラシックエレベーター



アレクサンドル・ネフスキー聖堂

ロシアっぽい建物です。

その向かいにあるのはトームベア城というお城で、現在は議会が中に入っています。議会前にはライジングボードが設置され、出入をチェックしていました。



ライジングボード

印象に残った一つは路面に国の歴史を年表にして埋め込んだプレートです。古くは紀元前から、独立宣言（1918年）、そして独立500周年（2418年）までありました。エストニアは小国で、かつてはデンマーク、ドイツ騎士団スウェーデン、ロシア他長きにわたって他国によって支配されてきた国であり、そうした経緯から500年後も国が存続してほしいとの願いが込められているような気がしました。



年表にして埋め込んだプレート

タリンから長距離バスでおよそ4時間半、EU域内ですが乗車時にパスポートを呈示し、延々と続く緑の草原を抜けると次の目的地ラトビアの首都リガに到着です。人口196万人、リガは70万人でバルト三国では最大の都市、西には500km続く砂浜があり、南北をリトアニアとエストニア、東はロシア、ベラルーシと接しています。宿泊したホテルからすぐ近くには運河が流れ、緑の公園が運河沿いに続き、運河には遊覧船が運航されています。

リガにはタリン同様旧市街と新市街があり、天を



運河での遊覧船



アールヌーボー様式の建築

貫くような教会や19世紀のアールヌーボー建築が混在する中世と19世紀末を同時に鑑賞できる都市です。ホテルから徒歩で15分ほど、リガ市庁舎広場には「ブラックヘッドの会館」があります。彫刻を施された建物壁面には、大時計の下に4つのハンザ都市（リガ、ハンブルグ、リューベック、ブレーメン）の紋章とギリシア神話の神々の像が置かれています。時計を作った職人は、二度と同じものが作れないよう目をくり抜かれてしまったとか。



彫刻を施された壁画「ブラックヘッドの会館」

移動してアールヌーボー様式の建築群を見学していると、ガイドさんが20mほど先にいるツアーご一行様につかず離れずしている2人組を多分スリだと教えてくれました。見た目にもジプシー風の40~50才台の女性で、改めて外国にいることを感じた一瞬でした。後に、我々が本当に実感することになるとは夢にも思いませんでしたが…。(おかげで大使館と警察署へ足を踏み入れることができました)

市庁舎前広場からほど近い場所に「聖ペテロ教会」があります。15世紀初頭に建設されましたが、倒壊、火災、爆撃、落雷炎上と再建を何度も繰り返し、ラトビアの辛い歴史を反映しています。その一角には、グリム童話の一つ「ブレーメンの音楽隊」の



ブレーメン音楽隊の像

像があります。姉妹都市であるブレーメン市から寄贈されたもので、記念撮影の人気スポットのようで、大勢の観光客が撫でている部分が光っています。

リガから最後の目的地リトアニアの首都ヴィリニウスへは、再び長距離バスで約4時間一路南下します。リトアニアは人口285万人、首都ヴィリニウスは57万人、ドイツ商人の影響なく作られたため、天を突くような鋭くとがった教会は、ほとんど見られません。また、エストニア、ラトビアではロシア人が4人に1人なのに対し、リトアニアでは20人に1人しかいません。



長距離バスからの路面標示

この地方で最も古い大学の一つヴィリニウス大学は16世紀後半の設立で、学内にある鐘楼からの眺め



ヴィリニウス大学の鐘楼からの風景

は、オレンジ色の屋根と森の緑のコントラストが美しく必見ものです。また、鐘楼の天井からは地球の自転を証明した「フーコーの振り子」が吊り下げられています。



フーコーの振り子

大学から土産物屋が数多く立ち並ぶピリエス通りを歩いて行くと、昔9つあった城門のうちただ一つ残っている「夜明けの門」に行き着きます。城門の上には小さな礼拝所があり、ここにある小さなイコンは奇跡を起こす力があると今でも信じられていて、信者が熱心に祈っている姿には、よそ者の我々から発する言葉を失わせるに十分な雰囲気があります。



夜明けの門

食事はジャガイモ料理が伝統食で、「ツェペリナイ」という肉詰めジャガイモのお団子は味付けも程よく日本人の口にも合う国民食です。こちらが最後の訪問地とあって、皆土産物を熱心に見て回りました。名産の一つはアンバー（琥珀）、お店も多く値段はピンキリで、日頃の奥さんへの罪滅ぼしに買っていく人もいました。また、リトアニアリネン（亜麻布）も有名で、スカーフからエプロン、ランチョンマットまで、多彩な色合いとともに購入意欲を刺激していました。

交通事情について一言、バルト三国ではいずれも横断歩道を渡ろうと人が立っていれば、必ず車は一時停止して人を通しています。横断歩道における歩行者ファーストは徹底していて、その点では日本は遅れていると痛感しました。東京オリンピック・パラリ



横断歩道（ラトビア）

ンピックを1年後に控え、日本では横断歩道で一時停止しない車の取り締まりを強化していますが、かの国では取り締まる必要は全くなさそうです。

まだまだ語りつくせぬ思い出が多々ありますが、

この辺で終着駅とさせていただきます。結びに一緒に旅した皆様へ

「楽しい旅をありがとう」

「感謝」「感謝」



ハンプ（リトアニア）



石畳の補修作業（リトアニア）



サイクルシェアリング
（リトアニア）



ヴィリニウス駅前の横断歩道
（リトアニア）



歴史を誘う「ヴィル門」（エストニア）



道路標識（リトアニア）



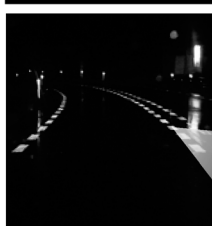
街中のオブジェが
ユニークなベンチ
（エストニア）

夜間の安全走行を
サポートする3Mの
テクノロジー

3M Japan Group
スリーエム ジャパン株式会社

〒141-8684
東京都品川区北品川6-7-29
<http://www.mmm.co.jp/ref/>

3M™ 全天候型溶融式路面標示材 3M™ All Weather Thermoplastic (AWT)



AWTは雨天時用の反射エレメントと大粒径ガラスビーズを混合した特殊反射素子を散布することにより、雨天時・晴天時ともに優れた視認性を提供します。



特殊反射
エレメント

カスタマーコールセンター
製品についてのお問い合わせはナビダイヤルで
0570-012-123
ナビダイヤル。市内通話料金でご利用いただけます。
受付時間／8:45～17:15 月～金（土・日・祝・年末年始は除く）
3M、ダイヤモンドグレードは3M社の商標です。

3M™ ダイヤモンドグレード™ DG³ 超高輝度反射シート（広角プリズム型フルキューブ）



3M™ ダイヤモンドグレード™ DG³
超高輝度反射シートは、マイクロ
リプリケーション（高精細表面）
技術によってほぼ100%の反射
面をもつ夜間でも明るく見やす
い、反射シートです。



フルキューブ
（DG³）

3M

お 知 ら せ

入 会

- サワダライン(株) (北陸支部)
代表取締役 南野 敦
〒921-8141 石川県金沢市馬替3-213
Tel.076-298-0885 Fax.298-0886
- E.TSS(株) (中部支部)
代表取締役 柴山 幸亮
〒431-1103 静岡県浜松市西区湖東町5750-2
Tel.053-486-0679 Fax.486-4226
- 日交安全施設(株) (中国支部)
代表取締役 山本 泰生
〒708-1126 岡山県津山市押入1219
Tel.0868-26-2611 Fax.26-2602
- 大道工業(株) (九州協会)
代表取締役 高田 保
〒849-0936 佐賀県佐賀市鍋島町大字森田739-1
Tel.0952-37-8070 Fax.37-8077
- (株)西日本道路設備 (九州協会)
代表取締役 亀川 陽一
〒841-0084 佐賀県鳥栖市山浦町2539-15
Tel.0942-83-8100 Fax.83-8311
- システム開発(株) (九州協会)
代表取締役 田中 龍一郎
〒861-8038 熊本県熊本市東区長嶺東9-12-27
Tel.096-389-9300 Fax.389-8918
- (株)ダンテック (九州協会)
代表取締役 深田 英治
〒861-8035 熊本県熊本市東区御領6-4-33
Tel.096-389-6633 Fax.285-7299

代表者変更

- 茨城道路(株) (関東支部)
代表取締役 山田 徹→杉浦 敦
- 昭和工業(株) (関東支部)
代表取締役社長 上林 弘→栗原 創
- 中部産業(株) (中部支部)
代表取締役 寺家 吉生→寺家 直史
- 宮川興業(株) (中国支部)
代表取締役 宮川 眞→宮川 晃一
- (株)山水製作所 (九州協会)
代表取締役 千葉 伸一→山下 茂

住所等変更

- 協立道路工業(株) (北陸支部)
〒933-0858 富山県高岡市泉町2-40
- (株)ロード産業 (中部支部)
〒424-0052 静岡県静岡市清水区北脇291

広報・教育委員会委員

(トラフィックサポーター編集担当)

委員長 松村みち子

委員	石川 盛昭	宇佐 孝之	大北 良弘
	太田 昭雄	岡根 隆資	小畑 営一
	笠原 孝志	鎌田 洋一	菰田 潔
	大上戸文男	辻野 善久	中村 弘一
	南雲 靖秀	本田 恵式	前田 年輝
	矢野 勝彦	山神 秀憲	(五十音順)
事務局	村上 寿一		



建設業界の皆様へ

10月は加入促進強化月間です

建退共に加入しませんか

福祉の増進と企業の振興のための国の退職金制度です

建設工事の第一線で働く優秀な人材確保にも寄与！

◎法律に基づき運営される国が作った制度

◎建退共加入は「経営事項審査」で加点評価

◎国からの財政上の支援

特長

◎掛金は全額非課税
(損金または必要経費に算入できます)

◎複数の企業間で就業しても通算して退職金を支給

◎加入の手続きは簡単

●加入できる事業主
建設業を営む事業主●対象となる労働者
建設業の現場で働く方

●掛金は一日310円

建退共は建設業で働く労働者のための退職金制度です。

独立行政法人 勤労者退職金共済機構
建設業退職金共済事業本部〒170-8055東京都豊島区東池袋1丁目24番1号
TEL 03-6731-2866 FAX 03-6731-2895

建退共

検索

